

笠原 裕司 (かさらは ゆうじ) 先生のプロフィール

富山医科薬科大学医学部卒業(現富山大学医学部)
富山医科薬科大学付属病院和漢診療部(研修医)
熊谷総合病院内科
清水厚生病院内科
富山医科薬科大学付属病院和漢診療部
医学博士取得
羽生総合病院和漢診療科部長
千葉大学先端和漢診療学 客員准教授
2013年 3月 笠原クリニック 開設

日本東洋医学会専門医・指導医
日本リウマチ財団リウマチ登録医
和漢医薬学会評議員



専門科目: 和漢診療(一般内科・漢方内科・漢方小児科・漢方婦人科・訪問診療)

◆先生が初めて漢方と出会われたのはいつ頃ですか

実家が漢方薬局(エキス剤専門)だったため、私の勉強部屋の壁面は漢方エキス剤の棚でした。

そこに書かれていた薬方名を意味も分からず覚えたのが、漢方との最初の出会いでした。

富山医科薬科大学に入学し、漢方研究サークル「緒鞭会(しゃべんかい)」に参加して、寺澤捷年教授や故・難波恒雄教授の指導を受けたのが、実質的な漢方の勉強の始まりです。

◆先生の御専門で漢方はどのような効果を発揮していますか

漢方専門の医師として診療に従事していますので、私の大きな武器です。

◆普段の治療で漢方薬と西洋薬との割合はどれくらいですか

8~9割が漢方薬です。

◆10年後の漢方医療はどうなっている(またはどうあってほしい)とお考えですか

漢方に理解のある医師が増えて、現代医学の医師からの紹介患者が今より増えると良いのに、と思います。

ただ、中国の経済発展に伴って中国国内での漢方薬使用量が増えた場合、日本への原料供給が十分されるかが心配な点です。



◆先生ご自身漢方を飲んで効果を実感なされたことがありますか

自分自身は割と健康なため、それほど飲む機会は多くないですが、感冒やアレルギー性鼻炎、下痢腹痛などは、漢方薬で治療します。

自己頻用処方、桂麻各半湯、小青竜湯、桂枝加芍薬湯などです。

◆これから漢方医を志す方に一言お願いします

まずは現代医学をしっかり身につけること。その上で、良い師匠を見つけて漢方の基礎をしっかり教わること。その先は、患者さんから教わることです。

漢方は一生の勉強だと思います。

◆漢方に関心のある一般の方に一言お願いします

漢方にも現代医学にも、それぞれ長所短所・得意不得意があります。それぞれの長所を生かせる治療が受けられるような医者選び、をして欲しいと思います。

◆座右の銘、好きな言葉などありましたら教えてください

「愛がなければ、いっさいは無益である」(聖書:コリント人への第一の手紙13章)

「患者さんが優しく感じられる医療」



注意:先生へのインタビューは、経歴以外、当会が2007年4月に行った内容です。